

佐久市佐久っと支援金事業 自己評価報告書

評 価 日 平成29年3月28日

団 体 名	学校法人佐久学園 佐久大学		
事 業 名	地域ぐるみで取り組む 賢い患者になるための「患者学」		
対象経費	3,156,759 円	支 援 金 額	398,000 円

事業の目的・内容	目的 「患者学」は患者、あるいは患者家族が、主体的に健康の回復・維持に取り組む考え方を指す。前年度において、「患者学」はより広い解釈で地域住民に理解されていることがわかった。「患者学」とは、予防・受診・生活・生き方等を包括するものであり、また、予防の要素も含めてそれぞれへのニーズが高いこともわかった。この事業を通じて、健康なうちから「患者」について「学」ぶ姿勢を地域住民が自主的にもち、交流することで、地域ぐるみで“健康寿命”を伸ばすことを本事業の目的とする。
	内容 今年度の事業は、前年度事業の反響を考慮しつつ、違う切り口から「患者学」を発展させる為に、予防・啓発を目的とした公開講座、経験の共有と交流を目的としたこすもすサロンの開設(ミニ公開講座の開催)、より広い範囲への情報普及を目指したガイドブックの配布及びホームページの開設を行う。

事業の活動実績	<事業の内容>
	1. 「患者学」公開講座の開催 ・時期:10月・12月 ・会場:佐久大学講堂(約400人収容可能) ・対象:佐久市及び近隣市町村の住民
	2. こすもすサロンの開設 ・時期:月1~2回(年間10回程度) ・会場:佐久大学内(約20人程度収容可能) ・対象:佐久市及び近隣市町村の住民 ・講師:本学教員及び地域住民 ・ミニ公開講座:6-1月 全8回開催
	3. 情報発信活動 ①「患者学」公開講座の周知 ・チラシを作成し新聞へ折り込み ・配布地域:佐久広域 ・チラシ概要:B4版 60,000部 ②こすもすサロン周知 ・リーフレットを作成し配布 ・概要:A3版 1,000部(公開講座等で配布) ③患者学HPの開設 ・「患者学」の情報を発信するページを立ち上げ、イベント情報や資料等の提供を行った
4. 「健康生活の知恵 ハンドブック」の広域配布【概要:B6版 36ページ程度 90,000部】	



事業の成果・効果	①公開講座の開催 参加者数 延べ212人 ②こすもすサロン開催 参加者数 延べ123人 ③ガイドブック製作 90,000部
	①公開講座・ミニ公開講座合わせて延べ335名の参加があった。テーマによって参加者数のばらつきが見受けられたが、全ての回において概ね良い評価が得られた。 ②こすもすサロンの折込チラシを増やすなど広報を強化したことで、様々なテーマに参加があった。テーマに合わせて年齢層が変わるため、幅広い世代に対して周知ができていたことが確認できた。 ③ハンドブックを製作したことで、自ら参加する人だけでなく、全世代に対して積極的に患者学を広めることが出来た。

自己評価	事業は申請どおり実施できた	①できた 2 概ねできた 3 あまりできなかった 4 ほとんどできなかった 主な理由(3、4と答えた場合のみ)
	事業の実施によって、期待した効果をあげることができた	①できた 2 概ねできた 3 あまりできなかった 4 ほとんどできなかった 主な理由(3、4と答えた場合のみ)
	実施計画書と実績報告書の活動費の内訳について	1 ほとんど同じ ②多少の変更があった 3 大幅に変更している 主な理由(2、3と答えた場合のみ) 公開講座講師の謝金の増減及びチラシ作成計画の変更による。チラシ作成においては、A4判の製作をやめ、より効果の高い折込に資金をあてた。
	その他、評価すべき点等	本事業の実施にあたり、前年度同様佐久市、佐久商工会議所からの後援を得ている。また、ガイドブックの作成にあたっては、配布先となる地域の佐久医師会、小諸北佐久医師会、佐久薬剤師会、小諸北佐久医師会の後援を得ている。

※ 自己評価の欄は、番号に○を付けてください。評価は、客観的自已診断です。

今後の事業展開	1年目及び2年目の活動によって、「患者学」をキーワードとして本学の事業を多くの人に知ってもらうことができ、外部からも関連する問い合わせが多く来るようになった。今後も公開講座とこすもすサロンを中心として、多数の人が関心を持ってもらえるような取組みと、そこから派生するテーマを軸に、発信する情報を増やし、本学ならではの事業を展開していく。
---------	---